

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第17号



NHK 菖蒲久喜ラジオ放送所模型 (久喜市菖蒲行政センター蔵)

郷土資料館では令和7年10月11日(土)から令和8年3月8日(日)まで第15回特別展「昭和100年・放送100年記念 昭和ラジオテレビ物語—「鉄塔」のあるまち久喜—」を開催しました。

100年前に日本でラジオ放送が始まり、昭和時代を通じてラジオ・テレビが発展を遂げた歴史の中で、久喜市は日本の放送を支える重要な地となりました。

本展では、久喜市内に所在する国内最大規模の放送施設であるNHK菖蒲久喜ラジオ放送所や日本でラジオ放送が始まってから現在に至るまでの放送や電波に関する資料を展示しました。

本号では、特別展に関連して郷土資料館で実施した様々な関係事業等についてご紹介します。

目

次

- 収蔵資料紹介^⑭ 森繁久彌の台本・・・・・・・・・・2
- 特別展「昭和ラジオテレビ物語」特集・・・・・・3
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

俳優の森繁久彌（1913～2009）が使用したNHKラジオドラマ「日曜名作座」の放送台本合計31点は、平成5年（1993）7月22日に本人から旧菖蒲町に一括で寄贈されました。

「日曜名作座」は、昭和32年（1957）から平成20年（2008）にかけて、NHKラジオ第1放送で毎週日曜日に放送されたラジオドラマです。出演者は森繁久彌と加藤道子（1919～2004）の2名で、森繁と加藤が各々複数の役を演じながら進行する内容を全国の人々はラジオ放送の聴取を通じて楽しみました。

旧菖蒲町では、NHK菖蒲久喜ラジオ放送所ができて以降、NHKの放送所が所在する町であることを積極的にPRしていました。そのため、同町はNHKと森繁久彌に働きかけ、台本の寄贈が実現しました。そして、平成6年（1994）4月7日に旧菖蒲町役場庁舎（現久喜市菖蒲行政センター）4階に「日曜名作座コーナー」が設置され、寄贈された台本とともに、番組の一部を再生する音声ガイダンスやラジオドラマ内で使用する風や波の音を発生させる装置等が展示されました。

の音を発生させる装置等が展示されました。

「日曜名作座コーナー」は、来庁者に旧菖蒲町とNHKとの関係の深さを伝えてきましたが、平成15年（2003）に閉鎖され、展示されていた台本は平成22年（2010）の1市3町の合併による新市誕生後、郷土資料館へ移管されました。

森繁久彌の台本の内訳は、別表のとおりで、「日曜名作座」のうち昭和38年（1963）から昭和59年（1984）にかけて放送された6タイトル分合計31点です。各台本には、台詞を読みやすくするための森繁自身による書き込みが随所に確認できます。

なお、NHKラジオ第1放送がNHK菖蒲久喜ラジオ放送所から本放送を開始したのは昭和57年（1982）4月1日のことで、これ以降に放送された「日曜名作座」は、現在の久喜市から関東地方をはじめとする全国に向けて放送されました。寄贈資料のうち「しがらき物語」と「家族」がこの時期に放送されたものです。

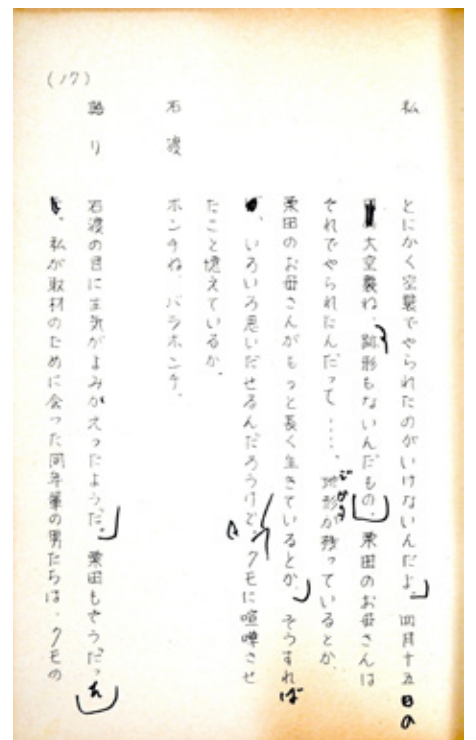
（松村）

森繁久彌の台本の内訳

| | タイトル | 全放送回数 | 放送年代 | 原作 | 脚色 | 台本の点数 |
|---|---------|-------|-------------------|-------|-------|-----------|
| 1 | 異郷の帆 | 9 | 昭和38年（1963）9月～10月 | 多岐川 恭 | 横光 晃 | 7※第5・6回欠本 |
| 2 | 秀吉と利休 | 7 | 昭和47年（1972）7月～8月 | 野上弥生子 | 須藤 出穂 | 7 |
| 3 | 本牧亭 | 6 | 昭和56年（1981）2月～3月 | 安藤 鶴夫 | 大西 信行 | 6 |
| 4 | 横浜オッペケペ | 3 | 昭和56年（1981）11月 | 山田風太郎 | 山田 正広 | 3 |
| 5 | しがらき物語 | 4 | 昭和58年（1983）4月 | 水上 勉 | 須藤 出穂 | 4 |
| 6 | 家族 | 4 | 昭和59年（1984）3月 | 山口 瞳 | 山田 正広 | 4 |



森繁久彌の台本全31点（当館蔵）



森繁久彌による台本への書き込み

特別展関連講座を開催しました

令和7年(2025)11月22日(土)に郷土資料館視聴覚ホールで特別展関連講座を開催しました。

本講座では、NHK技術局システムソリューションセンター副部長大塚伸夫氏を講師としてお招きし、大正14年(1925)に日本でラジオ放送が始まってから、現在の久喜市内へ放送所が移転するまでの歴史についてご講義をいただきました。講義内では、NHK 菖蒲久喜ラ

ジオ放送所の建設工事着工から完成に至るまでの貴重な映像記録を視聴することができました。

また、特別展関連講座の後半は、特別展会場にて当館学芸員による特別展の展示解説を行いました。

講座当日は、市内外の50人が受講しました。埼玉県外の遠方からの受講者もあり、特別展に対する全国的な関心の高さをうかがい知ることができました。

子ども向けのラジオ・テレビ体験事業を行いました

第15回特別展では、100年前のラジオ放送が始まったときに普及した鉱石ラジオでのNHKラジオ第2放送の受信や、60年前のカラーテレビが登場した際に一時普及した疑似カラーテレビを再現して白黒(モノクロ)写真を疑似カラーで見る体験コーナーを設置しました。

これらの体験内容は、郷土資料館の子ども向け事業でも実施しました。令和7年8月6日(水)の第2回子ども歴史広場では、昔の道具体験の一つとして、鉱石ラジオ受信と短波放送の受信を行いました。参加者から、鉱石ラジオが電源が無いのに放送が受信できることや、短波ラジオで数千キロ離れた海外のラジオ放送が受信できることへの驚きの声が寄せられました。

令和7年11月15日(土)・16日(日)の郷土資料館まつりでは、カラーフィルムを使用した疑似カラーテレビ

の製作や、カセットテープ用のレタリングシートを用いた名刺づくりを行いました。参加者は、初めての製作体験や疑似カラーテレビの実際の見え方を楽しみました。



郷土資料館まつりでの疑似カラーテレビ製作

ラジオ鷲宮の公開生放送が行われました

令和7年12月7日(日)に郷土資料館展示ホールでラジオ鷲宮の公開生放送が行われ、第15回特別展を題材とした約2時間の番組が、FM89.2MHzのラジオ放送及びインターネット動画配信で放送されました。

この放送は、第15回特別展で市内で活動するミニFM放送局のラジオ鷲宮を紹介したところ、同局から連携企画として提案され実現したものです。郷土資料館でラジオの公開生放送が行われたのはこれが初めてです。

放送は、ラジオ鷲宮パーソナリティ島田吉則氏の司会進行のもと、番組前半は梅田修一久喜市長と上條哲弘久喜市議会議長がゲスト出演しました。番組後半は、郷土資料館小林館長、松村学芸員、永澤主任の3人が出演し、特別展の開催趣旨説明や展示室へ移動しての展示解説、公開放送見学者へのインタビュー等が行われました。当日は来館者15人が放送を見学しました。

また、令和7年12月28日(日)には、連携企画の

続編として、「久喜市立郷土資料館×ラジオ鷲宮 —コラボ企画第2弾— 「昭和ラジオテレビ物語」 鉄塔のあるまち久喜 in ジャングル記念日」が開催されました。この番組はインターネット配信のみの放送で、小林館長が出演し、第15回特別展の展示資料解説等を行いました。



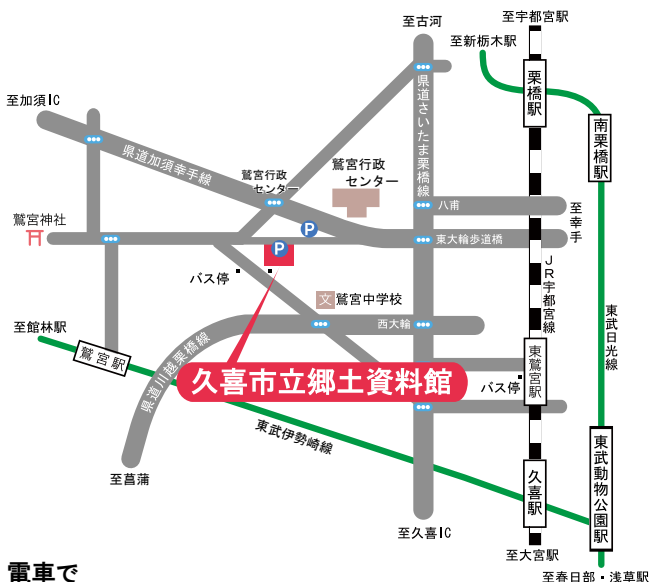
ラジオ鷲宮公開生放送の収録風景

東部地区文化財担当者会 40 周年記念リレー展示「都鳥が見た古代—埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代」を開催しました。

令和7年5月3日(土)から5月25日(日)まで、郷土資料館展示ホールを会場に東部地区文化財担当者会40周年記念リレー展示「都鳥が見た古代—埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代」を開催しました。

本展示は、東部地区文化財担当者会で令和6年3月に刊行した、埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代の遺跡や遺物の研究成果をまとめた報告書『都鳥が見た古代—埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代』を記念して開催したものです。

郷土資料館では、久喜市内最古の文字を有する資料である神明神社東遺跡と地獄田遺跡出土の墨書土器等の奈良時代・平安時代の市内出土遺物を展示するとともに、報告書の副題になっている都鳥に関する文献資料等を展示しました。



電車で

- 東武伊勢崎線 鷺宮駅下車 徒歩 15 分
- JR宇都宮線 東鷺宮駅下車「豊野コミュニティセンター」行きバス「図書館入口」下車 徒歩 2 分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから 10 分
久喜インターから 25 分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第 17 号

発行 令和 8 年 (2026) 3 月 1 日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷺宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前 10 時～午後 6 時

休館日 月曜日(祝日除く)、年末年始、

祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

